

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月3日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22330056

研究課題名（和文） 現代インド外交の解明-実態・戦略的方向性・外交モデルの総合的研究-

研究課題名（英文） Delving into Contemporary Foreign Policy of India

研究代表者

堀本 武功（HORIMOTO TAKENORI）

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特任教授

研究者番号：40364872

研究成果の概要（和文）：本研究はインド外交が1990年代始めに開始した新しい外交の実態を明らかにし、その具体的な事例として日印関係を検証し、現代インド外交の戦略的方向性と外交モデルの構築を目指すことを主眼とした。研究の結果、インドが重要な国々と戦略的パートナーシップの構築を目指した外交を進めつつあり、2005年以降の日印関係がその典型例であることが立証できた。そのうえで、中期的に鳥瞰すれば、インドが富国強兵を目指した外交戦略を展開しており、この外交を大国志向外交モデルと称せられることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The main subjects examined in this study are classifiable into three which are related to contemporary Indian foreign policy: fundamental characteristics of India's foreign policy initiated in the early 1990s, Japan-India relations as a case study, and India's strategic orientation and establishment of a new model of Indian diplomacy. Answers to those questions demonstrate that Indian diplomacy has undertaken the establishment of a strategic partnership with major countries. The Japan-India relationship since 2006 has been a typical case of such a strategic partnership. Furthermore, in the medium term, India can be expected to implement a diplomatic strategy of national enrichment and strengthening, with orientation of its diplomacy toward a major power.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
2011年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2012年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
年度			
年度			
総計	14,400,000	4,320,000	18,720,000

研究分野：国際関係論

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：社会科学・政治学・国際関係論・対外政策論・インド外交論

1. 研究開始当初の背景

わが国では、BRICs の一角を占めるなど、台頭著しい現代インドに対する関心が急速に高まりつつあり、これを反映して現代インド研究も広がり深まりを見せている。しかし、研究領域は経済と内政が主体であり、外交については不十分なままであった。

かつて、政治・外交の場合、堀本武功(研究代表者)が共編者(広瀬崇子)となって『現代南アジア—民主主義へのとりくみ(第3巻)』(東京大学出版会、2002年)という成果も出ている。しかし、この研究はインドに特化せず、南アジア全体が対象地域であり、かつ、時代範囲も1990年代の10年間に留まった。これに対して本研究は冷戦後のインドが大きな変貌を遂げた1990年代初め以降、今日に至る約20年間の時間軸でインド外交を検討しようとするものであった。

2. 研究の目的

わが国における現代インド研究は、インドの急速な台頭をうけ、徐々に質量ともに高まりつつある。しかし、研究対象分野は経済と内政に偏り、外交については乏しい。

そこで、本研究では、インドが従来の非同盟外交から1990年代初めに転換した新しい外交の実態を明らかにし、転換を機に大幅に改善が進展した日印関係を新外交の具体例として検証し、最終的に現代インド外交の戦略的方向性の解明と外交モデルの構築を目指した。

3. 研究の方法

初年度の平成22年度は、初年度となるので、本研究の全体計画(目的・手法・成果・日程)に関する共通認識を徹底化した。その上で本研究のメイン・テーマであるインド新外交の解明に力点を置いた。平成23年度および24年度においては、初年度に得られた知見を基に日印関係の研究に比重をかけた研究を進めた。その結果、新外交と日印関係の全貌と両者の相関関係が明らかになり、インド外交の戦略的方向性と外交モデルに関する結論を導き出した。

4. 研究成果

本研究の主題である現代インド外交について、冷戦後の1990年代以降の時期を中心にして研究をおこなった。

研究の結果として明らかになった点は、インド外交が1990年代初期にはルック・イースト(LE)政策を進めたが、1997年に南アフリカとの戦略的パートナーシップ(SP)を皮切りに、2013年までにSP関係構築国数は23カ国に達した。この数は、例えば、中国の12カ国、日本の8カ国(公式統計なし)と比べても、格段に多い。つまり、1990年代以降のインド外交は、LEとSPを組み合わせた外交政策と言える。

この外交政策は対日政策ないしは日印関係に端的に現れており、2005年以降、急速な緊密化が進展した。両国関係の緊密化は、両国間の2要因—経済と台頭する中国—が拍車をかけたことは間違いない。

インド外交を中期的に鳥瞰すれば、インドが富国強兵を目指した外交戦略を展開しており、この外交を大國志向外交モデルと称することができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

①小島 眞、日印EPA発効で重要性を増す対印関係と日本の針路、公明、査読無、第77号、2012.5、62-65

②三船恵美、米国の「アジア回帰」に新たな戦略を模索する中国、東亜、査読無、538巻、2012.4、28-36

③中溝和弥、弱者と民主主義—インド民主主義60年の実践—、日本比較政治学会年報 現代民主主義の再検討、査読有、14巻、2012、221-245

④溜 和敏、米印原子力協力法と在米インド系住民——人口比率と投票行動の分析、中央大学政策文化総合研究所年報、査読有、15号、2012、81-97

⑤小島 眞、インド型発展パターン展開と新たなステージ、国際開発学研究、査読有、第13巻第2号、2011.3、27-49

⑥堀本武功、大國化するインド—中国との対比、外交、査読無、第6巻、2011.2、92-99

[学会発表] (計7件)

①伊藤 融、The Approach to India Diplomacy:How to Establish Alternative IR rooted in India、2012年12月10日、India

International Center(India)

②堀本武功 “Bilateral Relations and Democracy,” presented at India-Japan Bilateral Portrayals: Mutual Perception and Image Formation (Embassy of Japan)、2012年12月6日(Taj Palace Hotel(Indi

③中溝和弥、Peripheries Creating the ‘Indian’ Nation—Border and Minority Questions Revisited—、International Symposium, From Empire to Regional Power, between State and Non-state、2012年7月5日、北海道大学(札幌市)

④堀本武功 “Strategic Convergence of Japan-India Relations,” Seminar on Japan-India Relations *India-Japan Ties: Asia’s Fastest Growing Relationship?*、2011年11月15日、Woodrow Wilson Center for Scholars (USA)

⑤三船恵美 「台頭する中国へのアメリカの政策と中国の朝鮮半島政策—東アジアのパワーシフトと米中関係—(部会3 東アジアのパワーシフトと朝鮮半島)」、日本国際政治学会2011年度研究大会、2011年11月11日、つくば国際会議場

⑥三船恵美 「中国の対インド政策(共通論題1 インド大国化のインパクト—アジアにおける国際関係の新展開)」、2011年度アジア政経学会東日本大会、2011年5月21日、獨協大学(草加市)

⑦小島 眞、グローバリゼーションとインド経済—東アジアと異なる発展パターン—、日本国際経済学会関東支部大会、2010年7月17日、立教大学(池袋)

[図書](計9件)

①堀本武功、小島 眞、三船恵美、伊豆山真理、村山真弓、伊藤融、溜 和敏、Lalima Varma、他、ManoharPublishers、India-Japan Relations in Emerging Asia、Manohar、2013、299

②三船恵美、他、Palgrave Macmillan、Japanese policy toward China’, The Troubled Triangle: Economic and Security Concerns for the United States, Japan, and China、2013、304

③村山真弓、他、アジア経済研究所、バンングラデシュ製造業の現段階:中間報告アジア経済研究所 2013、144

④堀本武功、伊藤 融、村山真弓、伊豆山真理、溜 和敏、他、アジア経済研究所、現代インドの国際関係—メジャー・パワーへの模索—、2012、353

⑤小島 眞、他、日本経済新聞出版社、イン

ド VS 中国: 二大新興国の実力比較、2012、258

⑥堀本武功、村山真弓、伊藤 融、中溝和弥、他、放送大学教育振興会、現代南アジアの政治、2011、270

⑦三船恵美、他、明石書店、中国外交の世界戦略、2011、320

⑧小島眞、堀本武功、他、日本経済新聞社、インド成長ビジネス地図、2010、2 伊豆山真理、95

⑨堀本武功、三船恵美、伊藤融、溜 和敏、他、垂紀書房、軍事大国化するインド、2010、237

[産業財産権]

なし

[その他]

ホームページ: 現代インド外交研究

<http://www.india-southasia.com>

(前年度末時点で終了)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀本 武功 (HORIMOTO TAKENORI)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・特任教授

研究者番号: 40364872

(2) 研究分担者

小島 眞 (KOJIMA MAKOTO)

拓殖大学・国際学部・教授

研究者番号: 70095420

三船恵美 (MIHUNE EMI)

駒沢大学・法学部・教授

研究者番号: 40312110

中溝 和弥 (NAKAMIZO KAZUYA)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授

研究者番号: 90596793

(3) 連携研究者

伊藤 融 (ITO TORU)

防衛大学校人文社会科学群国際文化学
科・准教授

研究者番号: 50403465

(H22: 研究分担者→H23、24: 連携研究者)

村山 真弓 (MURAYAMA MAYUMI)

日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領
域研究センター・次長

研究者番号: 10450454

田辺 明生 (TANABE AKIO)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域
研究研究科・教授

研究者番号：30262215

(4) 研究協力者

伊豆山 真理 (IZUYAMA MARIE)

防衛研究所・地域研究部アジア・アフリカ
研究室長

溜 和敏 (TAMARI KAZUTOSHI)

中央大学・法学研究科・博士後期課程